

法律相談センター将棋フェスタ ～棋士×弁護士 読みくらべ～

会員 秋山 努 (47期)

4月3日、弁護士会館クレオにて、「法律相談センター将棋フェスタ ～棋士×弁護士 読みくらべ～」と題するイベントを行いました。内容は、将棋のプロによる公開対局と、「法的思考と将棋の読み」とのタイトルのトークショーで、対局者、解説、聞き手として、佐藤康光九段、片上大輔六段、瀬川晶司四段、矢内理絵子女王（当時）、北尾まどか女流初段に出演いただきました。

法律相談センターは、まだ市民に十分に周知されているとは言えません。普段、センターと関わりがない方々に存在を知ってもらい、足を運んでもらうきっかけ作りを模索したところ、このイベントに思い至りました。将棋は日本の大切な伝統文化の1つであり、多くの人々が密に関心を抱いています。ほとんどの新聞には将棋（囲碁）欄があることから、その広告効果は窺われます。また、将棋の手を「読む」思考は、我々弁護士が相談者から事案を聞きとって法律構成し、相手からの反論も予想した上で法的手続を選択する思考過程と共通する面があります。

このように将棋と法律を比較して、一般市民の方々が楽しめるイベントを行うことで法律相談の堅いイメージを払拭し、センターに親しみを感じてもらうのが狙いでした。イベント告知以降、確かな反響がありました。会場は、用意した席（200席）はすぐに埋まり、急遽、席を増やしても立ち見客が出るほどの大盛況となりました。

当日は、弁護士会側より宇都宮健児日弁連会長、将棋会側より佐藤九段に挨拶をいただき、次に矢内女王と種村求弁護士（横浜）対北尾女流初段と軽部龍太郎会員（東京）のペア対局（1手ごと交互に指す）を行いました。ペア対局ではそれぞれ1回だけ「相談タイム」があり、重要な局面ではプロである女流棋士に相談することの大切さを、法律相談になぞらえました。

その後、各棋士と内藤満会員（東京）、溝呂木雄浩弁護士（第二東京）、軽部会員及び秋山努会員（東京）によるトークショーに入り、棋士の将棋観、弁護士の法律相談観



をぶつけ合いました。棋士からは共通して「経験からくる大局観、第一感が大切」との発言があり、我々にも大変に参考になるものでした。

簡単な法律（論理）クイズで少々、笑いを取った後、メインの佐藤九段対瀬川四段の公開対局を行いました。先のペア将棋もそうでしたが、将棋の内容は大熱戦で、予定時間を大幅に超過したのに席を立つ観客はほとんどおらず、みな、目の前で繰り広げられた迫力ある対局を堪能できていました。

対局の棋譜、トークショーの速記録は中継ブログ (<http://yomi-kurabe.jugem.jp/>) で公開され、今でもときおり将棋ファンがアクセスしています。アンケート結果もほとんどが好意的で、「楽しかった」「次もやってほしい」との声がたくさんありました。なお本フェスタでは、片上六段、北尾女流初段（ご夫婦です）にプロデューサー的な立場から、何から何まで大変にお世話になりました。ご夫婦の助力が無ければ、フェスタは絶対に実現しなかったと言えます。

個人的な意見になりますが、弁護士会のイベントは従前の枠にとらわれず、いろいろな試みをやってみようと考えます。落語、音楽、スポーツ等々、いろいろな取り組みも可能ではないでしょうか。ともあれ将棋ではルートができましたので、機会があれば、続編やまた東京以外でも実現してゆきたいと思っています。
*表紙裏にカラー写真掲載